

2013年度 教育課程論Ⅱ
Ⅱ. 学力評価とカリキュラム設計
(教育課程)

2013年10月30日
京都大学 西岡加名恵

◎「日々の記録」⑤

○パフォーマンス課題に関して、前回書いた疑問に対する回答を書いてください。(前回欠席した人は、パフォーマンス課題の定義と意義を、述べてください。)

○パフォーマンス課題を有効に用いるための条件について、述べてください。

※2~3人で、一枚ポートフォリオを交換して、上記が書けているれば、赤で日付の所に○をしてください(○をした人の名前も書いておいてください)。また、「なるほど」と思ったところの下に直線を、「うかがう」と疑問に思ったところに波線を引いてください。

※一枚ポートフォリオを返し、一言、コメントを返してあげてください。

◎前回欠席した人

前回の配布資料を受け取って、目を通してください。

2

◎質のいい課題を作る

①妥当性(validity)：
測りたい学力に対応している。

②真正性(authenticity)：
リアルな課題になっている。現実世界で試されるような力に対応している。

③レリバנסス(relevance)：関連性、切実さ：
生徒たちの身に迫り、やる気を起こさせるような課題である。

④レディネス(readiness)：
生徒たちが背伸びをすれば手が届く程度の、ちょうど良い難度。

(西岡加名恵「パフォーマンス課題作りのチェックリスト」西岡加名恵・
田中耕治編著『「活用する力」を育てる授業と評価・中学校』学事出版、2009年)

◎効果的で魅力的な指導を行う
→「逆向き設計」論のWHERETO

- は：はっきりとした見通しを与える(Where)
- ひ：一人ひとりを惹きつける(Hook)
- ふ：不安がないよう用意させ(Equip)
- へ：下手なところは改めさせる(Revise)
- ほ：本人の自覚を促す自己評価
(Self-Evaluate)
- と：ところで個人差どうするか？(Tailor)
- さ：最後に全体見渡そう(Organize)

(西岡加名恵編著『「逆向き設計」で確かな学力を保障する』明治図書、2008年。
西岡加名恵・田中耕治編著『「活用する力」を育てる授業と評価・中学校』学事出版、
2009年)

4

◎単元内・単元間の構造化

パート組み立て型 繰り返し型

◎学校としてのカリキュラム改善の取り組み

6

II. 学力評価とカリキュラム設計

- 教育評価の基本用語 ……10月16日
パフォーマンス評価とは何か
- カリキュラムの「逆向き設計」 ……10月23日
～パフォーマンス課題、ループリック、指導計画
- 学力評価計画の立て方 ……10月30日
看護教育におけるパフォーマンス課題
ポートフォリオ評価法
- パフォーマンス課題の作り方 →課題B
学力評価計画の立て方 →課題C
ポートフォリオの設計 →課題D(あ)

7

8. 学力評価計画の立て方 (1) “目標分析”の問題点

	単元1	単元2	単元3	…	総括的評価
関心・意欲・態度	目標aa 目標ab 目標ac	目標ad 目標ae 目標af	目標ag 目標ah 目標ai	…	合計・平均
思考・判断	目標ba 目標bb 目標bc	目標bd 目標be 目標bf	目標bg 目標bh 目標bi	…	合計・平均
技能・表現	目標ca 目標cb 目標cc	目標cd 目標ce 目標cf	目標cg 目標ch 目標ci	…	合計・平均
知識・理解	目標da 目標db 目標dc	目標dd 目標de 目標df	目標dg 目標dh 目標di	…	合計・平均

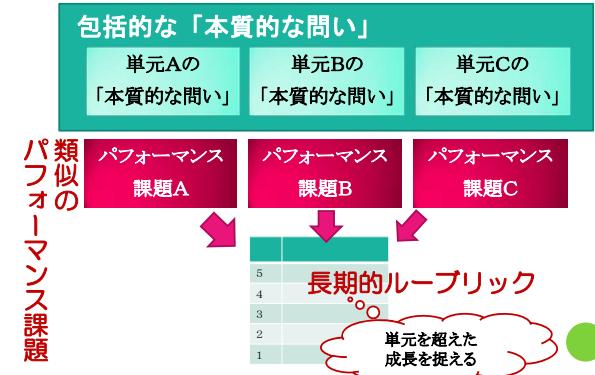
◎問題点

- 目標が限りなく細分化。⇒多忙化
- 評価方法がわからない。
- 「高次の学力(思考力・判断力・表現力等)」が評価できるか、疑問。
- どの程度のパフォーマンスが見られれば「良し」と判断できるのか、不明。
～スタンダード←社会的に共通理解
- 伸びないことが前提？！
←形成的評価(授業改善のための評価)と
総括的評価(指導後の状況を記録するため
の評価)の区別がついていない。

8

(2) 長期的ループリック

「本質的な問い合わせ」の入れ子構造



(3) “三次元モデル”



◎形成的評価と総括的評価の区別の明確化

- ・ 授業改善のための評価は日常的に行われることが重要である。一方で、指導後の児童生徒の状況を記録するための評価を行う際には、単元等ある程度長い区切りの中で適切に設定した時期において「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価することが求められる。
- ・ 「関心・意欲・態度」については、……ある程度長い区切りの中で適切な頻度で「おおむね満足できる」状況等にあるかどうかを評価するなどの工夫を行うことも重要である。

(中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」2010年3月24日)

12

9. 看護教育における

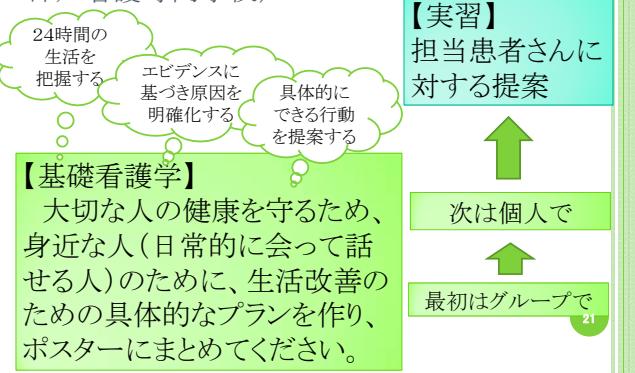
パフォーマンス課題

- (1) 包括的な「本質的な問い」

 - 健康とは何か？ どうすれば、より健康になれるのか？
 - 看護とは何か？ どうすれば、よりよい看護ができるのか？
 - どのように対象(患者さん)を理解すればよいのか？
 - どのように看護過程を展開すればよいのか？
 - どのように患者さんやご家族と関係をつければよいのか？
 - どのように同僚レセーバーとワークを発揮すればよいのか？

②課題の系統性

(公益社団法人 神戸市民間病院協会
神戸看護専門学校)



(2) より健康になるための提案づくり

①「ナイチンゲール・プロジェクト」

- あなたにとって「大切な人(家族・友人)」を一人選び、その人が健康でその人らしい生活を送るためにどうすればよいかを提案してください(身近で日常的に会って話ができる人を選んでください)。まず、その人がより健康であるための課題を見いだし、具体的なゴールを決めてください。さらに、それを叶えるためにはどうしたらよいか考え、その人を包括的に捉えた上で、エビデンスをもとに、実行可能なプランを提案してください。

(鈴木敏恵『看護師の実践力と課題解決力を実現する！ ポートフォリオとプロジェクト学習』医学書院、2010年、pp.102-108参照)

③看護実習

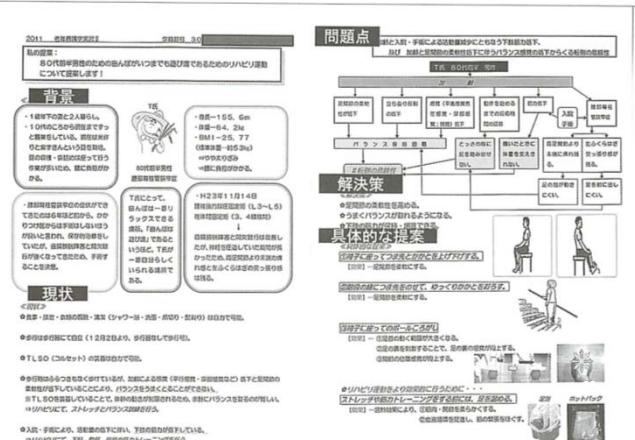
(神戸看護専門学校の実践)

- 看護師として、担当した患者さんの安全・安楽・安寧・健康を回復するためには、患者さんの背景と状況を正確に把握し、問題の原因を明確化したうえで、実行可能な解決策、具体的にできる行動を提案することが必要です。患者さんご本人と後輩たちの参考になるよう、実習中に担当した患者さんお一人について、生活改善のための具体的な提案をまとめた掲示物を作ってください。

(照林社主催「看護教員実力アップセミナー」(2013年8月4日)における山内美千代先生・大西安代先生のプレゼン資料参照。
赤字・丸ゴチック部分は、糸賀暢子先生のプレゼン資料参照。)

88

④学生の作品例(神戸看護専門学校提供)



(3) 実践力を身につける

①課題「臨床の現場で的確にふるまおう」 (あじさい看護福祉専門学校)

- 臨床の現場では、状況が刻々と変わります。患者さんの安全・安楽・安寧・健康の回復に少しでも役立つために、看護師は現場においてどのようにふるまえばよいでしょうか？ 現場の状況をできるだけ正確に把握し、少しでも役に立つ行動をとってください。また、その過程で、同僚・先輩から最大限のことを学んでください。

(照林社主催「看護教員実力アップセミナー」(2013年8月4日)における糸賀暢子先生のプレゼン資料参照)

10. ポートフォリオ評価法

(1) 職業人のポートフォリオ

- 紙ばさみ
- 画家や新聞記者、建築家といった人が、売り込みの時に使うファイル

(西岡加名恵・石井英真ほか『教職実践演習ワークブック——ポートフォリオで教師力アップ』ミネルヴァ書房、2013年)



(3) ポートフォリオの所有権

- 所有権(Ownership)： 残す作品や評価規準・基準の決定権



33

(2) ポートフォリオ評価法とは…

- パフォーマンス評価の方法の一つ
- ポートフォリオ： 学習者(児童・生徒や学生)の作品や自己評価の記録、教師の指導と評価の記録などを系統的に蓄積していくもの
- ポートフォリオ評価法： ポートフォリオ作りを通して、学習者が自らの学習のあり方について自己評価することを促すとともに、教師も学習者の学習活動と自らの教育活動を評価するアプローチ

32

(5) ポートフォリオ検討会



35

(宮本浩子先生提供。宮本浩子・西岡加名恵・世羅博昭『総合と教科の確かな学力を育むポートフォリオ評価法・実践編』日本標準、2004年参照)

(4) 取り組む上でのポイント

- ① 生徒と教師で見通しを共有する。
 - なぜ、作るのか？ 意義は何か？
 - 何を残すのか？
 - いつ、どの期間で作るのか？
 - どう活用するのか？
- ② 蓄積された作品を、編集する(整理・取捨選択する)。
 - ワーキング・ポートフォリオからパーマネント・ポートフォリオへ必要な作品を移す。
 - 検討会で見せる作品を選ぶ。
 - 目次を作り、「はじめに」と「終わりに」を書く。
- ③ 定期的にポートフォリオ検討会を行う。
 - 見通しを持つ。
 - 到達点と課題、次の目標を確認する。
 - 成果を披露する。

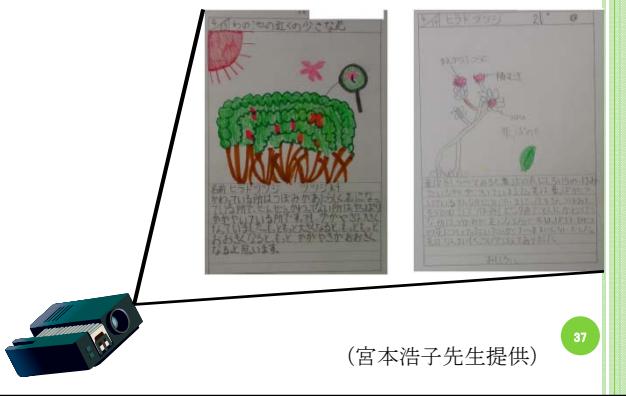
34

◎検討会の進め方 →資料5

- ① _____によって、子どもの自己評価を引き出す。
 - ② _____ (_____)。
 - ③ 達成点を確認し、いいところを褒める。
 - ④ _____ を通して、目標＝評価規準・基準を直観的につかませる。
 - ⑤ 次の目標について、合意する。
 - ⑥ 確認された達成点と課題、目標についてメモを残す。
- ※一斉授業（作品批評会など）の形で行うのでもOK

36

◎作品批評会をする



◎評価規準・基準などをマップで示す

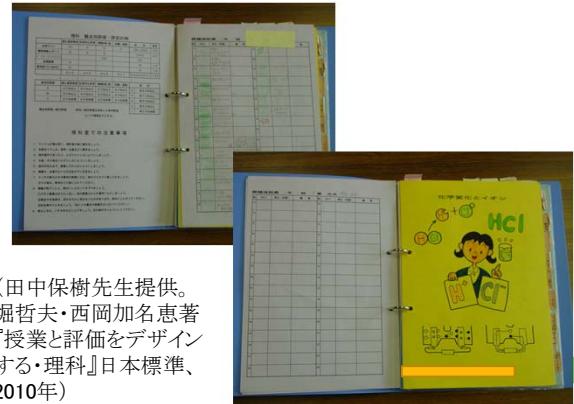


(6) 様々な実践例

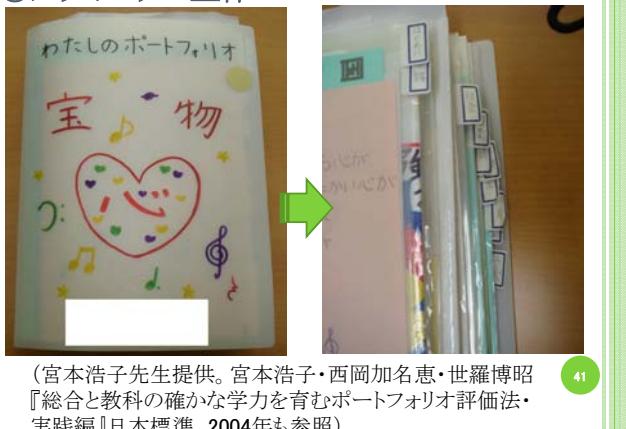
◎「総合的な学習の時間」



◎教科: 中学校理科



◎カリキュラム全体



■参考文献

